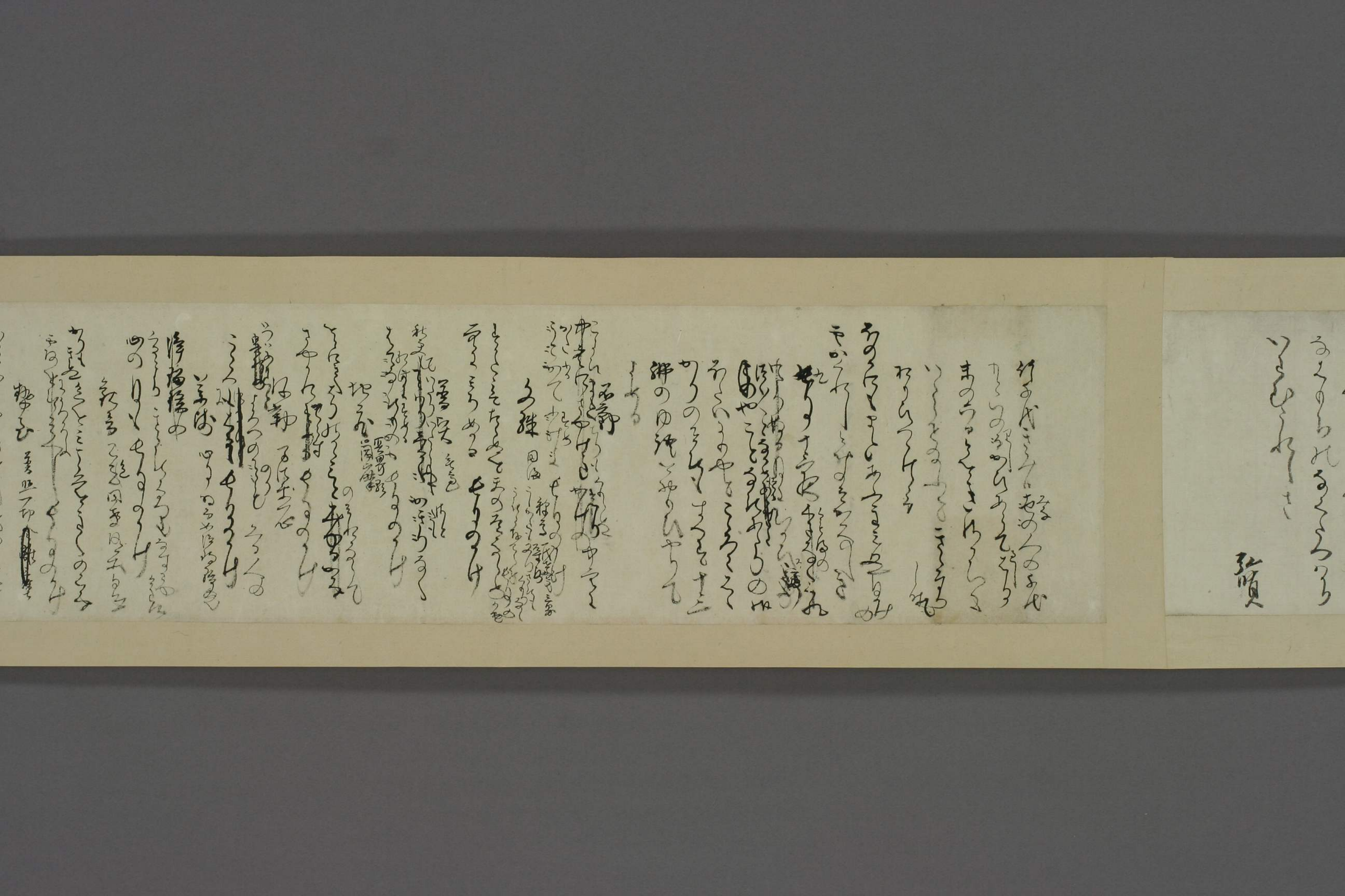
今月中のうたよみ
ものの月に作をすすめ
さたへ
にのうまれ是いの叶
こさは
すすしさいんのこと
さいたはよりおもて
のうまあるまて
あつさ日ひさしくむし
ものとなりてもけた
ものくもくもはらら
やまのひにくもあること
をれ式のねはうてく
さうしうれうくく
みのうてくくくくく
きくくの言はうら
ものにかくられる
ぬしけるくあひくく
たにするうらのは
何とうとうあるい言葉の
ものうえるるうされと
しうかのうるること
つあるる京解のうう
るわうあるくく
きくくけう
きあくあくく
みくうられるくう
つくうれうくう
賛



文化九年戊申日記

弘賢

秀の氏のまゝあるひのあやと
こゝをはしめとして祈りめさるの祈
五年あまりの百にゝ
あまりの年月をこゝにて
冀の名れさるにもあらず 祝馬の
疑をれおるまゝ小あひろ

[illegible]の[illegible]れたるもとに[illegible]馬の
[illegible]たるまゝあひ[illegible]

[illegible]した書[illegible]る
む月[illegible]ゝ[illegible]年
八幡[illegible]本の[illegible]
梓弓[illegible]ゝあられやへ[illegible]
たゝなり[illegible]ふ何[illegible]れさ
[illegible]
あ[illegible]の[illegible]
[illegible]

知賢

百首[illegible]平[illegible]
[illegible]
のしけ[illegible]る
[illegible]代に[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

弘賢

[illegible]

弘賢

法楽の神田社にして

ちはやふる神のみまへにさゝけもて
りまれ桜の枝かし
かゝる花信

弘賢

駱駝のすかたを人のいひ
はやしけれはまかりて
見侍りて

弘賢

おもしろきあやしと
いふめれとたゝことも
見るふきえのかな

神な月廿日ころ緒うつ
みかし程十日はなにきく之
思ひのほか霜いつもめつらしく
てかみを緒うつし侍れは
ほのけしき

弘賢

歴代弘賢自筆詠草

六巻之内

特別
A4
8088
4